



さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第48号(R6. 2. 16)

陸上部、新人駅伝県大会でも活躍！ 女子 9 位、男子 8 位！

2月10日(土)、寒気が残るも春の日差しをうけて、北九州市本城公園にて福岡県中学校新人駅伝競走大会が開催されました。本校陸上部は、日頃の練習の成果を発揮し、女子は9位、男子は8位入賞という好成績を残しました。

これで、本年度の新人戦の全ての日程が終了しました。新人戦では、それぞれの部・クラブ・チームあるいは個人で納得のいく結果が出たところとそうでないところもあったと思います。7・8年生のみなさんは、もうすでに夏の総体やクラブチーム選手権等に照準を合わせ、新たな目標を掲げてリスタートを切っていることと思います。それぞれに夏に向けて頑張ってください。

第5回かとう学園運営協議会を本校にて開催しました



2月14日(水)第5回学校運営協議会が開かれました。いつもは夜に行われている協議会ですが、今回は本校の生徒会役員と協議会委員のみなさんと熟議を行うため、昼間の開催となりました。熟議のテーマは、「地域の課題・願いと学校のニーズ」についてです。地域の方からは、高齢者の荷物運びや地域清掃・地域のまつりの準備運営、小学生の勉強サポートなどで中学生の力を借りたいという意見が出され、生徒会役員からはそれに答えるにはどうしたらよいかという意見が活発に出されました。



『西日本新聞』の投書欄の記事、「夢を追い続け実らせた生徒」

2月2日の『西日本新聞』の投書欄の記事、福津市の植本常吉さん(66歳)「夢を追い続け実らせた生徒」を転載します。植本さんは元高校の先生の方です。

「高校3年生の三者面談は卒業後の進路について話し合う大切な機会。ここでは保護者と生徒の間に大きな食い違いがある場合がある。受け持ったクラスの生徒もそうだった。母親は娘に、福岡の大学に行き、卒業後は地元企業に行き、就職してほしいと強く願っていた。しかし、生徒は幼い頃から続けているピアノの上達を目指して他県の有名音楽大への進学を強く希望していた。母親は仕送りは経済的にも無理だと付け足したが、生徒は奨学金やアルバイトなどがあるので自分で学費や生活費などは何とかすると反論した。最終的に彼女は母親の反対を押し切ってあこがれの大学へ進学した。この判断が正しかったかどうかの答えは後に彼女自身が出してくれた。今は学校の音楽教師として勤務しているという。ピアノはコンサートが開けるほどの腕前らしい。彼女の活躍を知るたびに、面談での母親の困り果てたしぶい表情を思い出すが、彼女の夢が実って良かったと思っている。」

運命はあるのか、運命をどうとらえるのか？

～ えなんじ 淮南子とシェイクスピアとパレアナに描かれている考え方 ～

みなさんは、つらいこと・いやなこと・わるいこと・悲しいことなどが起こった時、どう考えていますか。

自分に起こること、身のまわりや世の中で起きることは決まっているのだろうか？ それを運命と言って決まり事なのか、人間の力で変えられることなのか、偶然なのか。大昔からたくさんの人間が考えてきました。自分に起こる良いこと・悪いこと、運命なのか自力なのか。また、自分にとって不都合な出来事をどう考え乗り越えればよいのか。成功と失敗、勝利と敗北、繁栄と没落など、こうした事象を人間はどう考えてきたのか代表的なものを3つ紹介します。

まず最初に紹介するのは、紀元前の中国で書かれた古典『淮南子』（えなんじ）に出てくる「人間万事塞翁が馬」という話です。

『昔、中国の国境の塞（とりで）の近くに、翁（老人）が住んでいました。あるとき老人が飼っていた大切な馬が隣の国に逃げてしまいました。

近所の人々は同情しましたが、老人は「このことが幸運を呼ぶかもしれない」と平気でした。

やがて、その通りに数ヶ月後、逃げた馬が立派な馬を連れて帰ってきました。

近所の人々は祝福しました。しかし、老人は「このことが不幸を引き起こす原因になるかもしれない」と心配しました。

その通りに、老人の息子がその馬に乗り、落馬して足の骨を折るけがをしました。

近所の人々は息子を見舞いました。老人はまた「このことが幸運を呼ぶかもしれない」と言いました。

すると、一年して隣の国が大軍で攻め入ってきました。村の若者たちは戦争にかり出され、10人のうち9人が戦死しましたが、老人の息子は足のけがのせいで戦争にかり出されず命を落とさずにすみました。』

これは、良いことの中に悪いことが含まれ、悪いことの中に善いことが含まれるという話です。特に、悪いことが起こった時にはその中に良いことの予兆を見出そうとする教訓の話です。



次に紹介するのは、イギリスの文豪シェイクスピアが名作『ハムレット』で展開した発想です。

「世の中に幸も不幸もない。ただ考え次第でどうにでもなる。」

いかにも西洋的な思考で、事象や自然を人間の思考で積極的にコントロールもしくは制御しようとするものです。成功も失敗も考え次第で変えられる。幸運も不運も考え次第でどうにでもなるというとらえ方です。

最後に紹介するのは、アメリカの作家エレナ・ポーターの作品『パレアナ』です。この作品は、孤児となった少女パレアナが、引き取り手であるおばはもちろん、町中の人たちに明るさをもたらしていくという話です。パレアナは、かつて父から教わったゲームで、決して幸せとはいえない状況で、明るく楽しく生きていきます。そのゲームとは、「どんな悪い状況のなかでも、良いことを一つさがす」というゲームです。例えば、「雨が降るから関節が痛む」→「植物は喜んでいるわ」。「晴ればかり続く」→「洗濯物がよく乾くわ」という具合です。実際、パレアナは、どんな不幸に見舞われても、その事象の中から良いことやうれしいこと、楽しいことを必死になって見出して生きる力に変えていきました。この glad game は、日本語では「うれしい探し」や「喜びの遊び」などと訳されてきました。ちなみに、この110年前の全米のベストセラーは、「赤毛のアン」や「フランダースの犬」などの名訳で知られる村岡花子さんの翻訳です。